NEWS RELEASE

SARD Racing

2026年9月26日

2026 SUPER GT 第6戦「SUGO GT 300km RACE」(9/19-20)

スポーツランドSUGO(1周3.586km)

入場者数：予選11,100名、決勝19,000名　合計30,100名

9月20日（日）SUPER GT 第6戦「SUGO GT 300km RACE」の決勝が行われ、セミウェット路面からセーフティカースタートで始まった中、8番手からスタート担当の関口が序盤ピックアップ現象で苦戦して一時12番手となるも他車のアクシデントからのFCY/SCリスタートのあと、本来の速さを取り戻して前に食らいついていく好走。オーバーカット戦略で38周を終えてピットイン。8位付近に戦列復帰するとサッシャが異次元の速さで次々と前を攻略して3位に浮上、激しいデュエルの末に2位を奪取。さらにトップを猛追して一進一退で一時4秒差まで詰め寄ったが惜しくも2位チェッカー。ドライバーポイントは15点（計32点）を獲得しランキング5位に、チームポイントは18点（計44点）を獲得しランキング6位に戻した。獅子奮迅の勢いある走りを披露し、次も期待される第7戦は、10月17日（土）・18日（日）に大分県のオートポリスにて3時間レースとして開催される。

■事前情報

東北は杜の都・仙台近郊のスポーツランドSUGOが舞台となる今季第6戦「SUGO GT 300km RACE」。前戦第5戦鈴鹿では悔しいリタイアを喫し、現在ランキング10位となったDENSO KOBELCO SARD GR Supra。9月19日（土）午前に公式練習、午後にノックアウト方式（Q1、Q2）の公式予選、20日（日）決勝は13時30分スタートの300km（84周：約2時間）で争われ、ピットストップは1回で1人のドライバーの最大運転周回数は56周まで。サクセスウェイトは現獲得ポイントの倍となる34kgを搭載する。重量増によるSUGOでのタイムの落ち込みは、34kgだと約0.5秒弱。タイヤの持ち込みセット数は、ドライ4/ウェット6セット（うち1セットはヘビーウェット対応用）で決勝スタートまで使えるドライのマーキングは4セットとなる。

山間部にあるスポーツランドSUGOは高低差約70mあるテクニカルでトリッキーなマウンテンコース。コース幅も狭く、激しく厳しいコンタクトが起きエキサイティングな戦いが展開され、変わりやすい山の天候も大きな勝負の行方を握る。シーズンも延期第3戦を含み、残り4戦となる後半戦の始まり。現在ランキングトップとのドライバーポイント差は33点と離れているが、タイトル争いに生き残るためには、この後半戦の出だしで大量ポイントを稼ぐべく勝利を狙う、正に天王山となる。昨年のSUGOでは終始激熱バトルで2位フィニッシュを果たしたDENSO KOBELCO SARD GR Supra。この時期の不安定な天候や運も味方につけ、しっかりと実力を出し切って次に望みをつなぐためにも、脇阪寿一監督のもとチーム一丸に、どのような困難にも屈せず強い意志を貫き、堅忍不抜（けんにんふばつ）に勝利を狙っていった。

■公式練習走行

19日（土）10時30分から開始された公式練習走行は、気温22度/路面温度23度で朝方の雨の影響で雨は止んでいたがウェットパッチが残るコンディション。最初の60分間の混走セッションでは関口が、路面が乾くのを待ってからコースイン。まずはソフト側のドライタイヤを装着して10周ほど走行。7周目に1分10秒723でその時点でトップタイムを記録。その後、車両セット調整や決勝へ向けてのメニューをこなしながら17周目からサッシャがドライブ。赤旗中断やFCYテストを挟みながら27周を走行。混走セッションはトータル27周を走り込み、関口が7周目にマークした1分10秒723のタイムで2番手となった。

当初より15分遅れの12時10分から始まった10分間のGT500単独セッションでは、気温23度/路面温度26度に。ウェット宣言が出ていたため、サッシャがまず決勝への準備としてウェットタイヤを1周ベディング。2周目から新品のハード側のドライタイヤを装着して予選のアタックシミュレーションを実施。入念にタイヤを温め、6周目に混走セッションより1秒以上短縮する、1分9秒582の2番手タイムをマーク。結果、公式練習走行はトータル34周を走行して、サッシャのベストタイムで2番手となった。プログラムどおりに走行を進め、路面変化に合わせ込む精度が高く対応能力の向上が感じられた公式練習走行となった。

■公式予選

■Q1：サッシャが渾身のアタックで僅差のQ1を突破

19日（土）15時3分から開始されたQ1は気温23度/路面温度27度の曇り空のコンディション。サッシャはソフト側のタイヤを装着し、残り7分ほどでコースイン。午前中から午後に向けて更に合わせ込みをした中、アタックラップを5周目と決め、丁寧にタイヤを芯まで温めるウォームアップを4周実施。予定通り5周目にアタックに入るとセクター1をトップと遜色ない18秒を切ろうかというタイムのサッシャ。乗り込む前からこの6戦にかける想いは強く少しでも前方グリッドをと気持ちが入るサッシャは、続くセクターもギリギリのまさに渾身の走りで駆け抜け、1分09秒874の7番手タイムで非常に僅差となったQ1突破を見事に果たした。

■Q2：関口がQ2で4列目グリッドの8番手タイム

19日（土）15時41分から開始されたQ2は気温23度/路面温度27度とほぼ同様のコンディション。サッシャのアドバイスでクルマを微調整して、気合い十分にクルマに乗り込んだ関口もソフト側のタイヤを装着。残り8分ほどの、サッシャよりも1周多く周回できるタイミングでコースイン。Q1と同じくアタックを5周目と決め、丁寧にタイヤを温めていき、5周目予定どおりアタックに入る関口。セクター1でサッシャのタイムから若干遅れたがセクター2から巻き返していく。気合いの走りでコントロールラインを駆け抜けるも、コンディション変化からかQ1からのタイムアップは叶わず。もう1周アタックを続けたがタイム更新ならず、5周目のタイム1分10秒253で8番手となった。決勝は4列目8番グリッドから逆襲の勝利を目指す。

■決勝

■ウォームアップ走行

20日（日）12時から開始された20分間のウォームアップ走行は、気温22度/路面温度25度の雨上がり曇り空。最初はウェットタイヤを装着して関口がトップタイムをマークしながら確認走行を行い、続いてサッシャが8周目からステアリングを握って最後まで走行。ウォームアップはトータル14周を走行して、サッシャが10周目にマークした1分17秒189でトップタイムとなった。

■決勝レース

第１スティント：関口が我慢の展開から好走を披露

20日（日）13時30分決勝スタート時点は気温24度/路面温度25度の曇り空のコンディション。セミウェット路面からセーフティカースタートで始まった中、予選Q2タイヤがスタート指定タイヤとなり、8番手からスタート担当の関口が序盤にタイヤにゴムカスが付くピックアップ現象で苦戦してペースが伸びずに、一時17周目には12番手となる我慢の展開。他車のアクシデントからのFCY/SCリスタートのあと、33周目から本来の速さを取り戻して前に食らいついていく好走をみせると、他車がピットインを始める中、勝負のオーバーカット戦略で空いたコース上を関口が猛プッシュ。33周目には1台をかわし、残り3台がピットインせず留まるところ、好機とみて38周を終えて関口をピットに呼び戻した。

第2スティント：サッシャが激しいデュエルを制して2位フィニッシュ

第1スティントとは違うタイヤを装着してサッシャを送り出す。8位付近に戦列復帰するとアウトラップで一旦10位となったが、タイヤが温まると、ここからサッシャが異次元の速さで次々と前を攻略するオーバーテイクショーを披露。54周目には3位に浮上する快進撃。そこから10周あまり、FCYを挟んで100号車との激しいデュエルの末に66周目に2位を奪取。さらにトップ17号車を猛追して一進一退で一時4秒差まで詰め寄ったが、少し攻めすぎて燃料が足りなくなりそうなため終盤はかなりセーブする走りを強いられてしまう。じりじりと詰め寄ったが惜しくも2位チェッカーとなった。

ドライバーポイントは15点（計32点）を獲得しランキング5位に、
チームポイントは18点（計44点）を獲得しランキング6位に戻した。獅子奮迅の勢いある走りを披露し、次も期待される第7戦は、10月17日（土）・18日（日）に大分県のオートポリスにて3時間レースとして開催される。

■関口　雄飛

「決勝の自分のスティント序盤、タイヤにピックアップが付いて苦しい展開でした。SC後にペースが回復して前とのギャップも減り1台抜いて前に離されずに走れて勢いもあったので、サッシャのスティントでトップまで行って欲しいと願ってました。結果は悔しい2位でしたが、ランキングも元に戻れて、今週末を通して雨でもいつもより上位にいることが多かったので、次のオートポリスでもこの調子で頑張りたいと思います。引き続き、ご声援よろしくお願いいたします」

■サッシャ・フェネストラズ

「予選はまた難しくてパフォーマンスが出せなかったけど、決勝は、すごく良い走りができたと思う。クルマには強さがあって優勝争いも可能だった。でも、残念ながら少し攻めすぎて燃料が足りなくなりそうで終盤はかなりセーブする走りでした。あの状況がなければトップを追いかけられたと思います。今シーズン、ここまで本当に厳しいシーズンを過ごしてきているので、今回2位でフィニッシュできて良かったよ。タイトル争いを考えても貴重なポイント獲得になったね。次もガンバリマショウ！」

■監督　脇阪　寿一

「皆さんの応援、そしてドライバーとチームのハードワークで決勝2位という今季最高位の結果が得られました。正直、ああやれば優勝出来た！と言うものはありますが、再びランキングを戻せましたし、チームの雰囲気も良いので満足しています。ここから残り3レース、皆様の期待に応えるべく更に上位の結果をお見せできる状態に有ると思っています。チーム一丸となり頑張っていきますので、引き続き、熱い御声援をどうぞよろしくお願いします！」

■Qualifying Result

Pos.	No.	Car	Driver	Best Time	SW
1	64	Modulo HRC PRELUDE-GT	大草 りき／I.オオムラ･フラガ	* 1'09.050	0
2	17	Astemo HRC PRELUDE-GT	塚越 広大／野村 勇斗	* 1'09.368	50
3	19	WedsSport BANDOH GR Supra	国本 雄資／阪口 晴南	* 1'09.437	4
8	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛／S.フェネストラズ	1'10.253	34

天候：曇り、コース：ドライ、Timeの*はQ2ベスト

■Race Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time/Diff	Laps
1	17	Astemo HRC PRELUDE-GT	塚越 広大／野村 勇斗	1:59'13.559	84
2	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛／S.フェネストラズ	+4.729	84
3	100	STANLEY HRC PRELUDE-GT	山本 尚貴／牧野 任祐	+5.236	84

天候：曇り、コース：ドライ、3.586km×84Laps

■Drivers Ranking

Pos.	No.	Driver	Total
1	36	坪井／山下	58
2	17	塚越／野村	45
3	100	山本／牧野	38
5	39	関口／S.フェネストラズ	32

Point standings after Rd.6

■Team Ranking

Pos.	No.	Team	Total
1	36	TGR TEAM au TOM'S	73
2	17	Astemo REAL RACING	57
3	100	STANLEY TEAM KUNIMITSU	53
6	39	TGR TEAM SARD	44

Point standings after Rd.6

■Partners

■情報参照先

●サード公式ウェブサイト　：https://www.sard.co.jp

X　Facebook　Insta　threads　YouTube　TikTok

●SUPER GT　：https://supergt.net/jp

■本リリースに関するお問い合わせ先：チーム広報担当：宮本　e-mail: media@sard.co.jp

株式会社 サード
www.sard.co.jp
〒473-0914　愛知県豊田市若林東町上外根50
TEL. 0565-53-1166　FAX. 0565-52-5482